

番号	1				
科 目	農業経営論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 (必須) 専攻
講義時期：前期		形態:演習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	若林 剛志 [信州大学准助教]				
授業の到達目標	これからの農業経営には、世界や日本の社会経済の動向、農業の動向を理解・把握したうえで、グローバルでかつ長期的な視点から経営戦略の策定とその効果的な実行を行うことが求められる。そこで、多様な農業経営の発展過程とその経営管理について理論と方法の両面から理解するとともに、実践的な農業経営管理手法を身に付ける。				
授業の概要	農業経営に関する制度や仕組みから始め、経営の目標とビジョンの設定及びそれに基づく経営の組み立て、目標に到達する道筋としての経営戦略と事業計画、それらを実現するために必要となる経営の運営や改善の方法を概説する。また情報発信や経営の連携等についても触れる。				
使 用 教 科 書	特に指定しない。配布資料を用いる。				
主 な 参 考 図 書	『現代日本の農業ビジネス』八木宏典著(農林統計協会) 『現代農業のマネジメントー農業経営学のフロンティア』木村信男(日本経済評論社)				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。(50点未満の学生には再試験を行うことができる。)				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
現在の国内・県内の農業経営のあり方を知るとともに、経営戦略に基づく、実践的な農業経営管理手法の考え方をを習得する	1 農業経営の捉え方			2	
	2 農業経営に関する制度・政策			2	
	3 農業経営のビジョン・目標			2	
	4 農業経営の戦略・計画			2	
	5 農業経営の規模拡大と投資			2	
	6 農業経営の複合化・多角化			2	
	7 農業経営の雇用と法人化			2	
	8 農業経営の情報発信と提携			1	

番号	2				
科 目	起業チャレンジ論	講義 1 単位 演習 0.5 単位	15 時間 15 時間	1 学年	実践 (必須) 専攻
講義時期：前・後期		形態：講義・演習	実務経験者による講義の有無：有		
担当講師	中平義則 [松川町 (株)なかひら農場代表取締役社長] 小澤浩太 [大町市 小澤果樹園] 村松由規 [生坂村 村松農園] 浅川拓郎 [安曇野市 株式会社あづみのうか浅川] 土屋 梓 [南牧村 (株)アグレス] 有賀美和 [飯島町] 山本裕之 [御代田町 (株)ベジーツ] 殿倉由紀子 [飯田市 (株)太陽農場] 関 里恵 [中野市 信州中野つどい農園] 土肥寛幸 [松本市 土肥農園] 柿島洋一 [上田市 農事組合法人エコーズフェス] 花岡和徳				
授業の到達目標	地域で活躍されている実践者から「起業・チャレンジ精神」を習得し、地域貢献や新たなことに果敢に取り組む挑戦マインドを養成する				
授業の概要	先進農業者、新たに起業された農業者、地域づくりや企業との協働の取組をされている者から、自身のチャレンジ体験談等を講義や実際の現地に出向き「起業・チャレンジ精神」を習得する				
使 用 教 科 書	特に指定しない。				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	出席や受講態度、レポートの提出により総合的に評価を行う				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
農業経営者が身に着けるべき「起業・チャレンジ精神」を習得する	1 起業(Iターン就農者)			2	15
	2 先進農業者(新品目の導入、6次産業化)			9	
	3 女性の活躍の取組			2	
	4 地域づくり(企業との連携)			2	
	5 先進農業者の現地視察				

番号	3				
科 目	農業簿記	講義 1 単位 演習 0.5 単位	15 時間 15 時間	1 学年	実践 (必須) 専攻
講義時期：前・後期		形態:講義・演習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	宮崎早苗 (元農業大学校就農推進技幹)、花岡和徳				
授業の到達目標	企業的な農業経営者となるために、農業簿記の実務や農業会計を理解していることが必要である。農業簿記の基礎知識と複式簿記の原理を理解し実践的な経営管理能力を身に着けることを目標とする。				
授業の概要					
使 用 教 科 書	農業簿記検定3級 教科書・問題集、農業簿記検定過去問題集3級				
主 な 参 考 図 書	よくわかる農家の青色申告 複式農業簿記実践テキスト 全国農業会議所				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目		教 授 内 容			講義 演習
1 農業簿記の概要		(1)複式簿記とは (2)貸借対照表と損益計算書 (3)複式簿記一巡の流れ			2 2
2 記帳の一巡の手続き		(1)取引とは (2)仕訳と転記 (3)試算表の作成			2 2
3 勘定科目		(1)農業簿記の勘定科目			2 2
4 収益・費用の記帳方法		(1)収益と費用 (2)農業特有の会計処理			2 2
5 流動資産および流動負債		(1)流動資産・負債 (2)固定負債、資本			2 2
6 固定資産		(1)有形固定資産 (2)有形固定資産の売却			2 2
7 決算書の作成		(1)決算書作成までの手続き (2)決算の具体的な手続き			2 3
8 これまでの流れの確認					1

番号	4				
科 目	経営計画策定 (基礎講座)	講義 単位 演習 0.5 単位	時間 15 時間	1 学年	実践 専攻 (必須)
講義時期：後期		形態：演習	実務経験者による講義の有無：有		
担当講師	滝澤 恵一 [中小企業診断士、長野県中小企業診断協会前会長] 経営コンサルの長年の経験を活かし、経営計画の策定手法について伝授。				
授業の到達目標	卒業後、農業経営者として自社農場を運営するための経営計画書を策定するための準備として、策定に必要な基礎知識を学ぶとともに、策定内容が幻想とならないよう、1年生としての準備のためのアクションを明確にする。これを元にして、2年生において経営計画書を策定する。				
授業の概要	2年間学んだことの集大成として、自社の経営基本書、行動計画書、推進体制を明確にする。毎回、講義を受けた内容をもとにして、シートに書き込んでいく。農大実践コースの教授が個別に相談、アドバイスをし、作成を支援する。				
使 用 教 科 書	講師執筆のテキスト、ワークシートを使用				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
実現性のある経営計画を策定するための手法を習得	1 経営基本書の必要性と内容を学ぶ 2 経営理念の必要性と創り方を学ぶ 3 生存領域の必要性と定義の仕方を学ぶ 4 生産物を具現化する視点を学ぶ 5 生産管理の視点を学ぶ 6 流れを創る視点を学ぶ 7 プロモーションの視点を学ぶ 8 準備のための行動を明確にする				2 2 2 2 2 2 2 2 1

番号	5				
科 目	農産物マーケティング実習	講義 単位 実習 2 単位	時間 60 時間	1 学年	実践 (必須) 専攻
講義時期：前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	市場・仲卸・小売り関係者、JA職員等、花岡和徳 農産物流通の実践者から実際の流通状況について、実習を通し直接指導。				
授業の到達目標	生産物流通の現場を直接経験し、流通、販売に対する理解を深め、就農後の実践的な経営に活かすことを目的とする。				
授業の概要	実習先としておおむね6か所程度を選定し、受け入れ先の就業時間・規則に基づいて担当者の指示により実習を行う。				
使 用 教 科 書	特に指定しない。				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	実習日誌、実習報告者による評価表をもとに成績を評価する。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 JAによるブランド化の取組	(1) JAながの須高ブロック フルーツハリウッドの取組				16
2 長野県におけるマーケティングの取組	(1) 銀座NAGANOにおける取組 (2) 首都圏での販売促進の取組 (3) 農業者による商談会でのPR				4 4 8
3 市場を通じたマーケティング	(1) 仲卸の取組 (2) 市場の取組				8 8
4 消費動向	(1) 小売店における消費動向				12

番号	6				
科 目	農業政策・団体論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	山倉洋一				
授業の到達目標	長野県及びわが国の農業政策と当面する農業の諸課題等を理解するとともに、農業経営に係る制度を学ぶことにより農業人としての必要な教養を身につける。農業団体の目的、業務、役割を学び、各団体の実態、利用方法などを実情に即して学ぶ。学生自身が就農後、農業団体をどのように活用していくのか、主体的に考えるヒントとする。				
授業の概要					
使 用 教 科 書	長野県食と農業農村振興計画、私たちとJA、農業委員会制度、NOSAIガイドブック				
主 な 参 考 図 書	各制度推進パンフレット				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容				講義 演習
1 わが国の農業政策	(1) 現状と課題				2
2 長野県の農業政策	(2) 施策方向				
	(1) 現状と課題				3
3 農業経営に係る制度	(2) 目指す姿と展開施策				
	(1) 農業経営基盤強化関係				1.5
	(2) 経営所得安定対策関係				
	(3) 日本型直接支払制度				
	(4) 担い手育成対策関係(人・農地プラン等)				
	(5) GAP制度、6次産業化制度				
	(6) その他利用可能な支援制度				
	(7) 長野県の施策				
4 農業政策まとめ	(1) 自らの農業経営に活用する施策について				1
5 農業団体等とは	(1) 農業経営と農業関連組織・農業団体の目的役割				0.5
6 農業協同組合	(1) 農業協同組合の生い立ちと現状				2.5
	(2) 農業協同組合の事業				
	(3) 農業協同組合の組織、運営				
	(4) 農協改革について				
7 農業委員会	(1) 農業委員会の業務と役割				1.5
	(2) 農地制度				
8 農業共済組合	(1) 農業共済制度の仕組み				1
9 その他団体	(1) 土地改良区の業務と役割				1
	(2) 農業法人				
10 農業団体まとめ	(1) 農業団体の利用方法				1

番号	7				
科 目	農業経営体験実習	講義 1 単位 実習 26.6 単位	15 時間 800 時間	1 学年	実践 (必須) 専攻
講義時期：前・後期		形態：講義・実習	実務経験者による講義の有無：有		
担当講師	講義：花岡和徳 実習：先進農業者：長年の経験からの栽培管理等の匠の技術を伝授。				
授業の到達目標	先進農業経営者の経営や技術を習得するため、県内の先進的な農業経営体等で1年を通じてその作目の作業ポイント時期ごとに実習を行い、農業・農村に対する理解を深めるとともに、就農意欲のさらなる喚起を図ることを目的とする。				
授業の概要	実習先として各品目の先進農業者を選定し、受け入れ先の就業時間・規則に基づいて農業者の指示により実習を行う。				
使 用 教 科 書	特に指定しない。				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	実習日誌、実習先農業者による評価表をもとに成績を評価する。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 農業経営体験実習開始にあたって	(1) 受け入れ農家の選定 (2) 実習にあたっての心構え			15	800
2 先進農家における農業経営体験実習	(1) 各作目の基礎知識 (2) 栽培技術の習得 農作業技術や農業機械操作等の習得 (3) 経営技術の習得 事業計画作成、マネジメント、マーケティング、生産工程管理等の技術の習得				

番号	8				
科 目	就農準備演習Ⅰ	講義 単位 演習 3 単位	時間 90 時間	1 学年	実践 専攻 (必須)
講義時期：前期		形態：演習	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	宮本周司、花岡和徳				
授業の到達目標	長野県内各地で先進的な農業経営を行っている農業者、及び県内にIターンUターン就農した経営者の現地ほ場を訪ね、就農までの経過や就農後現在に至るまでの苦労話などをうかがい、今後の就農に向けての参考とする。 また、県内先進的農業者とのつながりを深めるための一助とする。 併せて、県内各地の就農地の関係機関との連携、農地確保、Iターン就農者の住宅確保等の準備を支援または学生が個別に活動を行う時間とする。				
授業の概要	先進農業者への視察を行い、目標となる農業者像を明確とするとともに、就農希望地の関係機関との連携を通じ、学校の卒業後を見据えた計画的な活動を行う。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容				講義 演習
1 新規就農に向けての心構え	(1) 農地の確保 (2) 資金の調達				7.5
2 先進的な農業技術の習得	(1) 技術情報を得る (2) 技術情報の活用				7.5
3 農産物の販路拡大	(1) 営業活動について (2) インターネット・ホームページの活用				7.5
4 就農地での人脈づくり	(1) 農業者との付き合い方 (2) JA部会組織 (3) 地元地域との付き合い方				7.5
5 地元市町村、農業委員会、農業農村支援センターとの連携支援	(1) 農地の確保について				10
	(2) 関係機関との連携による農地・住宅情報の収集				10
2 認定新規就農計画の作成	(1) 5か年の経営計画の策定				10
	(2) 資金返済計画の立て方				5
	(3) 金融機関との相談業務				5
	(4) JA部会組織との連携方法				5
3 その他就農準備に関わる活動					15

番号	9				
科 目	農業生産工程 管理学	講義 1 単位 実習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 (必須) 専攻
講義時期：後期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	由井素子 小原忠彦(元食品工業試験場生物工学部)				
授業の到達目標	GAP取得に向け、GAPの背景にある理論を理解する。あわせて、GAPと関連がある授業(植物防疫、農業薬剤論、農業機械、流通論)の中でも必要な内容を講義する。				
授業の概要	GAPの基礎的知識を理解し、認証取得の演習に結び付ける。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 GAP概論	(1) GAPの概念、GAPの歴史 (2) 20世紀の農業の課題と持続可能な農業			2 2	
2 汚染とリスク	(1) 農業と汚染のリスク (2) リスクの現状把握・写真等での確認方法			2 2	
3 リスク評価	(1) リスク評価の方法			2	
4 農業廃棄物管理と資材	(1) 農業現場で発生する廃棄物に伴うリスク (2) 農薬、肥料、燃料等			1	
5 食品安全	(1) 農産加工品と賞味期限・微生物 (2) 食品衛生管理			4	

番号	10				
科 目	セーフティーマネジメント論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	柳澤和也 [(一財)日本農村医学研究所、主任研究員] 医療関係者の視点から、農作業安全についての知識を伝授。 花岡和徳				
授業の到達目標	農作業を安全に行い、農作業事故を防止することは、農業生産の振興や農業経営の安定を図る上で重要な事項である。また、心身ともに健康で農業に取り組むことが基本である。そこで、農作業安全についての理論、実践的な農作業事故防止の手法と心身の健康維持管理についての手法を身に付に付ける。				
授業の概要	農作業安全一般に関する事項、危険箇所での作業及び危険箇所の整備に関する事項、安全で快適な作業環境に関する事項、機械や資材の利用、管理に関する事項、農作業に従事する者が安全に心身ともに健康で継続的に農作業を行うための留意すべき共通事項について学ぶ。				
使 用 教 科 書	農作業安全の手順 1,2,3(一社 日本農村医学会発行)その他(配布資料等で行う)				
主 な 参 考 図 書	・農作業事故は“なぜ”どうして起きるのか(三廻部眞己 著) ・農林水産省 農作業安全の啓発資料 (農作業安全のリスクカルテ、こうして起こった農作業事故など)				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
農作業事故にあわないために	1 農業現場における心身の健康の必要性和維持管理Ⅰ			2	
	2 農業機械の農作業安全(刈払機・歩行型トラクター・乗用型トラクター他)			2	
	3 農業機械以外の農作業安全(高所作業・重量物を扱う作業・温熱環境他)			2	
	4 農薬散布時の農作業安全			2	
	5 農作業現場におけるセーフティマネージメント(圃場実習)			2	
	6 ケガなど農作業中に起こる事故に対する応急処置			2	
	7 従業員の安全確保			2	
	8 農業現場における心身の健康の必要性和維持管理Ⅱ			1	

番号	11				
科 目	スマート農業論	講義 1 単位 実習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：有		
担当講師	亀岡孝治（信州大学 特任教授、三重大学 名誉教授） 渡邊 修（信州大学農学部） 持田 宏平（株）セラク、太場次一（デジタルハリウッド大学デジタルコミュニケーション学部教授）：園芸施設メーカー等から最新の I C T を活用した農業先端技術について伝授。				
授業の到達目標	農業において課題となる人手不足や経験知の伝承の解決策としてロボット技術やクラウドサービス等が開発され提供されつつある。多くの分野で導入されてきているAIやIOT、ICTを活用した先端技術を外部専門家より学ぶことにより、その技術を理解し使いこなすことができる人材を育成する。				
授業の概要	先端技術の現在の研究の概要や将来の発展方向、今後の可能性のほか各試験研究機関や開発メーカーの取り組みの現状を各分野の専門家より学ぶとともに、実際に使いこなす手法を体験する。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 スマート農業研究の概要	1 農業におけるスマート農業研究の概要			2	
2 スマート農業研究の事例	2 農業におけるスマート農業研究の事例紹介			2	
3 リモートセンシングの活用	3 衛星・ドローンを使った作物の生育診断			4	
4 環境モニタリングシステム	4 施設環境モニタリングシステムと活用方法			4	
5 農業生産管理システム	5 農業生産管理システムの実際と今後の展望			3	

番号	12				
科 目	作物栽培総論	講義 0.5 単位 実習 単位	8 時間 時間	1 学年	実践 作物 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	加科秀喜				
授業の到達目標	食用作物に関する基礎的知識と技術を習得する。				
授業の概要	水稻、麦、豆類、雑穀の栽培に関する基礎知識を身に着ける。				
使 用 教 科 書	「新版 作物栽培の基礎」農文協				
主 な 参 考 図 書	主要穀類指導指針 長野県				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容				講義 実習
1 稲	全国の作物生産状況				1
	長野県の作物生産状況				1
	(1) 来歴と分類				2
	(2) 生産状況				
	(3) 形態的、生理・生態的特性				
	(4) 品種				
(5) 栽培					
2 麦類	(6) 加工と利用				2
	稲に同じ				
3 まめ類	稲に同じ				1
4 雑穀	稲に同じ				1

番号	13				
科 目	作物学各論	講義 1 単位 実習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 作物 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	加科秀喜				
授業の到達目標	水稻の生理・生態及び栽培技術の習得				
授業の概要	水稻の生理・生態から具体的な栽培技術の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	主要穀類指導指針 長野県				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 水稻の品種	(1) 品種特性と用途について			1	
2 水稻の栽培技術	(1) 種子予措と育苗技術について (2) 土づくりと施肥について (3) 代かきと移植技術について (4) 水田雑草の防除について (5) 生育期～出穂期の管理について (6) 施肥と移植技術について (7) 病虫害防除について (8) 収穫技術について (9) 乾燥調製技術について (10) 米の食味品質について			10	
3 特色ある栽培方法と稲作経営	(1) 直播など低コスト水稻栽培について (2) 環境にやさしい水稻栽培について (3) 稲作経営について			1	
4 ムギ類(コムギ、オオムギ)				1	
5 豆類(大豆・小豆)				1	
6 その他雑穀類(ソバ)				1	

番号	14				
科 目	作物学各論	講義 単位 実習 2 単位	時間 60 時間	1 学年	実践 作物 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	加科秀喜				
授業の到達目標	イネ、麦、大豆、雑穀類について実際に栽培を体験し、その栽培方法及び栽培技術を学ぶ。				
授業の概要	実際の栽培を通じて知識と技術の習得を目指す。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 イネの栽培技術の習得	(1) イネの育苗について、中苗育苗法を種籾準備から、は種、育苗管理技術 (2) 本田における田植までの耕起、代かき、田植作業について大型機械による作業技術 (3) 除草、病虫害防除、追肥、溝切り、水管理の中間管理作業 (4) 適期収穫技術及びコンバイン等による収穫作業および乾燥調製作業 (5) 食味計利用による調査方法等				60
2 ムギの栽培技術の習得	(1) 耕起・播種作業の実際 (2) 除草剤散布の実際 (3) 施肥管理 (4) 収穫乾燥調整作業の実際				
3 豆類の栽培技術の習得	(1) 耕起・播種作業の実際 (2) 除草剤散布の実際 (3) 施肥管理 (4) 収穫乾燥調整作業の実際				
4 雑穀類の栽培技術の習得	(1) そばの栽培技術の習得 ・耕起・施肥・は種の実際 ・収穫乾燥調製作業の実際				

番号	15				
科 目	野菜栽培学総論	講義 0.5 単位 実習 単位	8 時間 時間	1 学年	実践 野菜 専攻 (必須)
講義時期：前期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	石川宏司				
授業の到達目標	野菜園芸に関する基礎知識を修得				
授業の概要					
使 用 教 科 書	野菜栽培指標、野菜栽培の基礎				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 野菜をとりまく状況と環境問題	(1) 食べ物としての野菜、野菜の利用、野菜の品質 長野県、全国の野菜生産・流通・消費の現状 (2) 長野県、全国の野菜生産			0.5	
2 野菜と野菜栽培の視点	(1) 野菜の種類、歴史			0.5	
3 生理生態	(1) 種子、発芽、根、茎葉、結球 (2) 花芽分化、開花受精、果実肥大、休眠			1	
4 生育環境	(1) 地下部、地上部環境、生物環境 (2) 土壌管理、施肥栄養診断、障害			1	
5 栽培管理	(1) 被覆資材、施設栽培 (2) 養液栽培			1	
6 果菜類の生育と栽培	(1) 播種、育苗、接ぎ木、定植 (2) ナス科野菜、ウリ科野菜			1	
7 葉茎菜類の生育と栽培	(1) 播種、育苗、定植 (2) アブラナ科野菜、キク科野菜、ユリ科野菜			1	
8 根菜類、その他の野菜	(1) ダイコン、ゴボウ、ニンジン、ナガイモ、スイート コーン、イチゴ			1	
9 野菜経営の実情、課題	(1) 露地野菜経営、施設野菜経営			1	

番号	16				
科 目	野菜栽培学各論	講義 1 単位 実習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 野菜 専攻 (必須)
講義時期：前期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	石川宏司				
授業の到達目標	経営の主体となる野菜類の生理生態、栽培技術及び環境に配慮した生産方法を習得させる。				
授業の概要	経営の主体となる野菜類の生理・生態から具体的な栽培技術の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	野菜栽培指標、野菜栽培の基礎				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容				講義 実習
1 野菜をとりまく状況と環境問題	(1) 食べ物としての野菜、野菜の利用、野菜の品質 長野県、全国の野菜生産・流通・消費の現状 (2) 長野県、全国の野菜生産				2
2 野菜と野菜栽培の視点	(1) 野菜の種類、歴史				1
3 生理生態	(1) 種子、発芽、根、茎葉、結球 (2) 花芽分化、開花受精、果実肥大、休眠				2
4 生育環境	(1) 地下部、地上部環境、生物環境 (2) 土壌管理、施肥栄養診断、障害				2
5 栽培管理	(1) 被覆資材、施設栽培 (2) 養液栽培				2
6 経営の主体となる野菜類の生育と栽培	(1) 播種、育苗、接ぎ木、定植、栽培管理、収穫調整				5
9 野菜経営の実情、課題	(1) 露地野菜経営、施設野菜経営				1

番号	17				
科 目	野菜栽培学各論	講義 単位 実習 2 単位	時間 60 時間	1 学年	実践 専攻 野菜 (必須)
講義時期：前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	石川宏司				
授業の到達目標	経営の主体となる野菜類の生産、経営技術を習得				
授業の概要	実際の栽培を通じて知識と技術の習得を目指す。				
使 用 教 科 書	野菜栽培指標				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 葉菜類の生理 生態と栽培概要	(1) レタス、キャベツ、はくさい、ねぎ、野沢菜、 ブロッコリー、カリフラワー、アスパラガス等の栽培 (2) 難防除病害虫対策				60
2 果菜類の生理 生態と栽培概要	(1) トマト、ピーマン、なす、きゅうり、すいか、 かぼちゃ、いんげん、そらまめ、えんどう えだまめ、スイートコーン等の栽培 (2) 難防除病害虫対策				
3 根菜類の生理 生態と栽培概要	(1) ながいも、さつまいも、じゃがいも、ごぼう、 さといも、だいこん、にんじん、たまねぎ等の栽培				
4 施設野菜 の栽培管理	(1) いちご、トマト、きゅうり等果菜類の栽培 (2) レタス、ほうれんそう、コマツナ等葉菜類の栽培 (3) 施設内特異発生病害虫対策				
5 土壌管理	(1) 露地ほ場の土づくり (2) 施設ほ場の土づくり (3) 施肥技術 (4) 灌水技術 (5) 除草技術				
6 出荷と販売技術	(1) 収穫調整技術 (2) 出荷技術 (3) 販売の実際				

番号	18				
科 目	花き栽培学総論	講義 0.5 単位 実習 単位	8 時間 時間	1 学年	実践 花き 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	若子由佳里				
授業の到達目標	花き園芸に関する基礎知識を修得				
授業の概要	花き全般にわたる基礎的知識を学ぶ				
使 用 教 科 書	農学基礎セミナー「草花栽培の基礎」農山漁村文化協会				
主 な 参 考 図 書	「花き栽培指標」 長野県 、「花卉園芸大辞典」 養賢堂				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 人間生活と花と緑	(1) 花き園芸の発達・花きをとりまく情勢 (2) 広がる花きの利用 (3) 花きの種類・品種と名前			1	
2 花きの特性と栽培・利用	(1) 花きの形態 (2) 花きの成長・開花と環境 (3) 花きの繁殖方法 (4) 花の育種 (5) 土壌の性質と施肥 (6) 施設の種類・構造と利用 (7) 花きの品質と品質保持			6	
3 花き栽培の実際	(1) 苗の生産 (2) 鉢もの (3) 切り花・球根類・花木			1	

番号	19				
科 目	花き栽培学各論	講義 1 単位 実習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 野菜 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	荒井政昭				
授業の到達目標	主要切り花における栽培技術、経営の技術を修得する。				
授業の概要	多くの花き類の生理・生態から具体的な栽培技術、経営の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	長野県花き栽培指標 長野県花き基本計画				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目		教 授 内 容			講義 演習
1 生理生態		切り花栽培の基礎知識			8
2 作型と品種		主要品目			
3 育苗、肥培管理		(1) キク			
4 開花調節		(2) カーネーション			
5 切り前と出荷		(3) トルコギキョウ			
6 病虫害防除		(4) スターチス類			
7 施設と資材		(5) ストック			
8 流通、市場性、 収益性、労働性		(6) リンドウ			
		(7) ユリ			
		(8) アルストロメリア			
		(9) ラナンキュラス			
		(5) ストック			
		(10) その他切花			
		(11) 育苗、流通			
		鉢花、花壇苗、切り枝、切り葉栽培の基礎知識			7
		主要品目			
		(1) シクラメン			
		(2) シンビジウム等洋ラン類			
		(3) ポットマム			
		(4) ポイセチア			
		(5) プリムラ類			
		(6) パンジー類			
		(7) 切り枝、切り葉			
		(8) その他鉢花、花壇苗			
		(9) 施設管理			
		(10) 育苗、流通等			

番号	20				
科 目	花き栽培学各論	講義 単位 実習 2 単位	時間 60 時間	1 学年	実践 花き 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	荒井政昭				
授業の到達目標	主要切り花における栽培技術、経営の技術を修得する。				
授業の概要	実際の栽培を通じて知識と技術の習得を目指す。				
使 用 教 科 書	長野県花き栽培指標				
主 な 参 考 図 書	花栽培の最新情報1(切り花、鉢花)				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 主要花きの生産技術	(1) 増殖、育苗技術 温度湿度管理、水分管理 (2) 土づくり、培土づくり (3) 施肥、灌水技術 (4) 肥培管理 (5) 病虫害防除 (6) 切り花調整、鮮度保持、出荷荷造り (7) 機械利用、施設管理の基礎				60
2 主要花きの品種作型	(1) 品種特性の把握 (2) 作期の拡大 (3) 開花調節技術				
3 経営の実際	(1) 省力化技術 (2) 品目の収益性と生産コスト (3) 市場、需要動向				

番号	21				
科 目	果樹栽培学総論	講義 0.5 単位 実習 単位	8 時間 時間	1 学年	実践 果樹 (必須) 専攻
講義時期：前期		形態:講義	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	町田希実				
授業の到達目標	果樹園芸に関する基礎知識を修得する				
授業の概要	果樹全般にわたる基礎的知識を学ぶ				
使 用 教 科 書	果樹指導指針、果樹園芸学の基礎				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容				講義 実習
1 果樹の成長と果実生産	(1) 果樹の一生と1年 (2) 各器官の成長と果実生産 (3) 結果習性				2
2 暮らしの中の果樹	(1) 果樹の栽培と利用 (2) 果実の生産と消費				2
3 果樹栽培の基礎	(1) 果樹栽培の適地 (2) 良果多収の基本と枝の成長(整枝・せん定) (3) 基本になる栽培管理技術 (4) 苗木の生産と果樹園の開設整備 (5) 貯蔵と加工				4

番号	22				
科 目	果樹栽培学各論	講義 1 単位 実習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 果樹 専攻 (必須)
講義時期：前期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	町田希実				
授業の到達目標	経営の主体となる果樹の生理生態、栽培技術及び環境に配慮した生産方法を習得させる。				
授業の概要	経営の主体となる果樹の生理・生態から具体的な栽培技術の知識を学ぶ。				
使 用 教 科 書	果樹指導指針、果樹園芸学の基礎				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 果樹の成長と果実生産	(1) 果樹の一生と1年 (2) 各器官の成長と果実生産 (3) 結果習性			1 2 3	
2 暮らしの中の果樹	(1) 果樹の栽培と利用 (2) 果実の生産と消費				
3 果樹栽培の基礎	(1) 果樹栽培の適地 (2) 良果多収の基本と枝の成長(整枝・せん定) (3) 基本になる栽培管理技術 (4) 苗木の生産と果樹園の開設整備 (5) 貯蔵と加工			1 3 3 1 1	

番号	23				
科 目	果樹栽培学各論	講義 単位 実習 2 単位	時間 60 時間	1 学年	実践 果樹 専攻 (必須)
講義時期：前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	町田希実				
授業の到達目標	経営の主体となる果樹の生産、生態と栽培技術を習得する。				
授業の概要	実際の栽培を通じて知識と技術の習得を目指す。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書	果樹指導指針				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 りんご	(1)接ぎ木、(2)着果管理、(3)夏季管理 (4)着色管理、(5)適期収穫・選果・出荷 (6)病虫害診断と防除、(7)土壌管理と施肥 (8)整枝・せん定、(9)品種特性				60
2 ぶどう	(1)新梢管理、(2)結実確保、(3)結果調節 (4)無核化技術、(5)適期収穫・選果・出荷 (6)病虫害診断と防除、(7)土壌管理と施肥 (8)整枝・せん定				
3 なし	(1)着果管理、(2)袋掛け、(3)新梢管理 (4)適期収穫・選果・出荷、(5)病虫害診断と防除 (6)土壌管理と施肥、(7)整枝・せん定 (8)品種特性				
4 もも	(1)着果管理、(2)袋掛け、(3)夏季管理 (4)着色管理、(5)適期収穫・選果・出荷 (6)病虫害診断と防除、(7)土壌管理と施肥 (8)整枝・せん定				
5 その他果樹 (うめ、プルーン、あんず)	(1)着果管理 (2)適期収穫・選果・出荷				
6 共通	(1)生態調査の方法 (2)機械の使用方法和農作業安全				

番号	24				
科 目	国際文化論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 (選択) 専攻
講義時期：前期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	杉浦功一 [文教大学国際学部 教授]				
授業の到達目標	世界全体および各地域の社会と文化の基礎知識を身に付け、変化する世界で社会と文化を理解して行動できる国際的な能力を身に付ける。				
授業の概要	まず、教科書を使い、世界全体および各地域の基本的な情勢を説明する。そのうえで、各地域や主要国の社会や文化を説明する。また、関連した映像や文章を見ながら、双方向の授業も取り入れる。				
使 用 教 科 書	変化する世界をどうとらえるか―国際関係論で読み解く				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1. 世界の理解と文化の役割	国際関係論の複数の理論を説明し、世界の見方や文化の役割を理解する。			2 2	
2. アジアの社会と文化①―中国	中国の社会と文化を説明する。			2	
3. アジアの社会と文化②―韓国ほか	韓国や東南アジアの社会と文化を説明する。			2	
4. アジアの社会と文化③―日本	他国と比較しながら日本の社会と文化の特色をつかむ。			2	
5. ヨーロッパの社会と文化	EU諸国などの社会と文化を説明する。			2	
6. アメリカの社会と文化	アメリカ合衆国の社会と文化を説明する。			2	
7. 中南米とアフリカの社会と文化	中南米やアフリカ諸国の社会と文化を説明する。			2	
8. 文化の国際交流	観光などを通じた文化の国際交流を考える。			1	

番号	25				
科 目	国際関係論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 (選択) 専攻
講義時期：前期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	麻田 玲 [山口大学経済学部准教授・JICA緒方貞子研究所 客員研究員]				
授業の到達目標	先進国、途上国等の農業と文化など様々な価値観と農業観を学ぶことにより、国際的な視野と柔軟な考え方を身につける。				
授業の概要	文化(culture)の基盤である農業(agriculture)は、様々な国々の独特な風土の上に成り立っている。それらの様子・背景を知るとは、自らの生活・考え方を省みる絶好の機会となる。本講義では、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ諸国の中から、講師になじみの深い国々を取り上げ、それぞれの農業の文化・歴史について考えていく。				
使 用 教 科 書	特に指定しない。必要に応じてプリント等を配布する。				
主 な 参 考 図 書	『世界の農民群像』七戸長生(農山漁村文化協会)1995 『新規就農促進方策の海外事例の調査研究事業報告書』稲泉博己(国際農業者交流協会)2006 『アフリカ可能性を生きる農民』島田周平(京大出版会)2007				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
世界の様々な国々の農業を知り国際的な視野を身に着ける	1	アメリカⅠ(アメリカ合衆国ほか)		2	
	2	アメリカⅡ(中南米、ブラジルなど)		2	
	3	ヨーロッパⅠ(ドイツなど)		2	
	4	ヨーロッパⅡ(オランダなど)		2	
	5	アジア(インドネシア、カンボジア)		2	
	6	アフリカⅠ(エチオピア、ナイジェリア、カメルーンなど)		2	
	7	アフリカⅡ(南アフリカなど)		2	
	8	農業の文化とまとめ(討論とレポートまとめ)		1	

番号	26				
科 目	コミュニケーション論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 (選択) 専攻
講義時期：前期		形態：講義	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	風間登志子（丸の内ビジネス専門学校副校長）				
授業の到達目標	対人理解力を向上させるとともに、社会科学的なコミュニケーション理論を学ぶことと、いわゆるコミュニケーションスキルをしっかりと身につけたい。				
授業の概要	社会人として求められるコミュニケーションの基礎知識から個々のスキル向上を目指して、楽しく丁寧に講義します。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容				講義 演習
1. コミュニケーション能力とは	目的・手段・形態などについて				1
2. 基本的な話し方とマナー	あいさつ・自己紹介・言葉遣い				2
3. 1対1のコミュニケーションスキル	効果的な話し方・聞き方(アクティブリスニングとアクノレッジ)				2
4. 組織内のコミュニケーション	職場内のルールとマナーにそった対応				2
5. 円滑な人間関係を築く	アサーティブな話し方 上手な自己主張				2
6. コミュニケーションスキル	コーチング				2
7. 日本語表現	ビジネス文書の基礎・メールの書き方の注意				2
8. プレゼンテーション	プレゼンテーション				2

番号	27				
科 目	リーダーシップ論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 (選択) 専攻
講義時期：前期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：有		
担当講師	滝澤 恵一 [中小企業診断士、長野県中小企業診断協会前会長] 経営コンサルの長年の経験を活かし、企業経営者に求められるリーダーシップについて、伝授。				
授業の到達目標	自社(農場)経営、地域の中でリーダーシップを発揮して、自社の業績を積み重ね、地域においては地域農業を活性化させる農業経営者にとって、どのような人間力が必要なのか。その人間力を鍛え磨くために、何をしていけばいいのか、続けていけばいいのか、実践する内容を学び、自分のものとするを目的とする。				
授業の概要	リーダーに求められる人間力とは何か 人間力向上のためにどのようなことを行えばよいのか 経営理念の必要性を学び、その明確化をする 人生の座右の銘を明確にし、心と言行で表現する リーダーとしてのコミュニケーション力を鍛え磨く これらを学び、実践する。				
使 用 教 科 書	講師執筆のテキスト、ワークシートを使います。				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
農村社会のリーダーとなるためには	1 経営者の役割とリーダーシップ 2 経営者としての人間力向上(1)世の中の仕組みを覚える 3 経営者としての人間力向上(2)器量を大きくし、志を抱く 4 経営者としての人間力向上(3)人間性を高める 5 座右の銘、経営理念を明確にし、自ら実践実行する 6 アクティブコミュニケーション(1) 7 アクティブコミュニケーション(2) 8 まとめ			2 2 2 2 2 2 2 2 1	

番号	28				
科 目	経営戦略論Ⅰ	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 専攻 (選択)
講義時期：前期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：有		
担当講師	中 麻弥美[㈱コムテック22 シニアコンサルタント] マーケティングの専門家として、事業維持拡大の戦略立案等のノウハウを伝授。				
授業の到達目標	本講義では、農業経営における競争優位を見出し、事業を維持・拡大していくための戦略を立案し、意思決定をしていくための力、それを実行に結び付ける力を身に付けることを目的とする。				
授業の概要	経営戦略論Ⅰを踏まえたうえで、ケースメソッドを活用して実践に応用する力を養う。学生と教員による熱心なディスカッションを通じて、農業経営が抱える現実の問題点とその解決方法について多様なアイデアを創出することを特に力を入れたい。				
使 用 教 科 書	農業経営 新時代を切り開くビジネスデザイン、手にとるように小売・流通がわかる本				
主 な 参 考 図 書	『マーケティング戦略論』上原征彦(有斐閣)				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
農業経営実践力の習得	1	ケースメソッドの説明、ケース1の出題		2	
	2	ケース1の討論(グループディスカッション)		2	
	3	ケース1のグループごと発表、ケース2の出題		2	
	4	ケース2の討論(グループディスカッション)		2	
	5	ケース2のグループごと発表、ケース3の出題		2	
	6	ケース3の討論(グループディスカッション)		2	
	7	ケース3のグループごと発表、ケース4の出題		1	
	8	ケース4の討論(グループディスカッション)			

番号	29				
科 目	農産物マーケティング論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 専攻 (選択)
講義時期：前期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	伊藤 雅之 [筑波学院大学 教授 博士(農業経済学)]				
授業の到達目標	一般流通論の基礎をマスターし、そのうえで日本の食料・農産物流通の具体的な仕組みと、そのメリット、デメリットを理解する。さらに、マーケティング論の基本(4P)を学び、ケーススタディを通して実践方法を理解する。農産物の流通論とマーケティング論の両方を習得することにより、農業経営者としてマーケティング戦略、経営戦略を企画立案する能力を涵養する。				
授業の概要	流通の仕組みに関する基礎理論と米穀流通、青果物流通、花き流通、加工食品流通、およびマーケティング論の基礎理論、生鮮食品(生鮮野菜)のマーケティング、加工食品のマーケティング等に関する授業を行う。 流通論とマーケティング論の基本と、その応用としての農産物流通、農産物マーケティングの習得が可能である。				
使 用 教 科 書	新版 食料・農産物流通論				
主 な 参 考 図 書	『業務・加工用野菜』(農山漁村文化協会)、『農産物販売におけるネット活用戦略』(筑波書房)				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
農産物の流通を知り、自身の販売に生かす手法を習得する	1 流通の基礎概念(流通主体、流通客体、商流、物流、流通機能、流通チャネルの基本4類型、総取引数極小化の原理、等)を習得する。 青果物、米、花き等の流通システムも理解する。			4	
	2 マーケティング論の4P(Product Strategy, Price Strategy, Place Strategy,Promotion Strategy)を習得する。 農産物のブランド化の方法についても理解する。			4	
	3 特定の事例を基に農産物マーケティングのあり方を議論する。 現時点では新規就農者の取り組みを事例として考えている。 マーケティングやブランディングで工夫していることを紹介する。			4	
	4 インターネットの活用について、マーケティングの視点から議論する。 ネット販売やDM販売等の消費者販売の特性を理解し、その上で消費者とのコミュニケーションの活発化策を検討する。			3	

番号	30				
科 目	消費者行動論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 (選択) 専攻
講義時期：後期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：有		
担当講師	坂上眞介〔市場開発研究所 代表取締役〕 市場調査分析の専門家として、マーケティング活動について知識を伝授。				
授業の到達目標	これからの農業経営において、マーケティング活動は極めて重要であり、消費者理解と市場調査・分析は、マーケティング活動上欠かせない能力、スキルとなっている。 授業では、マーケティング、消費者理解の重要性と基本的な考え方を学んでもらうことからはじめ、企業的意思決定の手段である市場調査が、企業のマーケティング活動の過程でどのように実践されているのか、その理論と実際を正しく理解してもらうことを目的とします。 あわせて、公的データの分析、活用方法についても学ぶ。 本講座は農業経営者として実際にマーケティング活動を行えるようになること、実際にマーケティング活動を行う上で使えるスキルを身につけてもらうことを主眼におく。				
授業の概要	最初にマーケティングと消費者行動理解の重要性を学んでもらい、公的データ等の見方・活用方法を通じて、大きく競争市場の捉え方、マーケティング的な考え方に馴染む。 次いで、市場調査の概要、市場調査の方法と特徴、市場調査実習を学んでもらうことにより、最終的には市場調査を行い、マーケティング活動を自身で行えるような知識とスキルを身につけてもらいます。分析手法においては、基礎的なものにとどまらず、応用的なものまでの習得を目指す。				
使 用 教 科 書	特に指定しない。				
主 な 参 考 図 書	統計学入門 東京大学教養学部統計学教室 東京大学出版会 調査法講義 豊田秀樹 朝倉書店 アンケート調査入門 朝野熙彦 東京図書 多変量解析の実践―初心者がらくらく読める(上・下) 菅民郎 現代数学社				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
農業経営者に必要なマーケティングスキルを身に着ける	1. 競争市場の本質理解と消費者理解の必要性 2. 公的データの収集と活用方法 〔課題：公的データの分析〕 3. 消費者の情報処理と意思決定理論 4. 市場調査概論 〔課題：調査企画、調査票作成など〕 5. 調査データの集計 6. 調査データの分析 〔課題：調査データ集計、分析など〕 7. 基礎的な統計手法 8. 応用的な統計手法 〔総合課題：調査企画実施～レポート作成まで〕				2 2 2 2 2 2 2 1

番号	31				
科 目	農村社会論	講義 1 単位 演習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 専攻 (選択)
講義時期：前期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	相川陽一 [長野大学環境ツーリズム学部准教授] 諸藤享子 [NPO法人農と人とくらし研究センター理事]				
授業の到達目標	経営者が生活する農村や都市は、経済的原理だけでは割り切れない慣習や社会的約束などに満ちている。現代社会における経営者が理解しておくべき社会現象やその背景にある社会動向に関して、社会学的観点から解説し、経営者が身に付けるべき社会学的センスを磨くことを目的とする。				
授業の概要	本授業では、農業経営者が理解しておくべき社会的動向と、その背後に存在する価値観や構造の変化について概説する。日本農村におけるイエ・ムラの原型とその変貌、農村の女性が果たす役割変化とネットワーク、メディアに登場する農村イメージの変化、農と食をめぐる新たな運動などを取り上げ、農村において生じている新しい変化を概観し、経営者が直面する新たな課題と機会について学ぶ。				
使 用 教 科 書	特に指定しない。				
主 な 参 考 図 書	『食と農の社会学』榎瀧・谷口・立川編(ミネルヴァ書房、2014年)				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
農業経営者が身に着けるべき社会学的センスを習得する	1 社会学からみた日本のイエ・ムラとその変貌				4
	2 消費される農業と農村				4
	3 農業経営や地域活動における女性の役割				4
	4 農と食をめぐる新しい運動とその倫理				3

番号	32				
科 目	植物生理・栽培論 入門	講義 2 単位 演習 単位	30 時間 時間	1 学年	実践 専攻 (選択)
講義時期：前・後期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	丸田一成（元長野県農業大学校教授）				
授業の到達目標	植物生理学の基礎知識とその農業への応用について修得する。 作物栽培の起源・歴史・技術を学び、立地圃場条件に最適な栽培方法を見つける。また、防除の考え方、合理的な防除方法を習得する				
授業の概要					
使 用 教 科 書	絵とき 植物生理学入門、栽培学				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目		教 授 内 容			講義 演習
1 光合成		(1) 光合成に関する諸要因			4
2 輸送と配分		(2) 植物による二酸化炭素固定 (1) 同化産物の転流 (2) 同化産物の分配			2
3 水分管理		(1) 水分吸収と水ポテンシャルとの関係 (2) 植物の生育と水分の役割			2
4 無機栄養		(1) 必須元素の条件 (2) 必須元素の吸収・利用とその機能			2
5 植物生長調整		(1) 植物ホルモンの生理作用 (2) 発芽の必須条件			4
6 種子と発芽		(1) 種子の形成と化学組成 (2) 発芽の必須条件			2
7 開花・結実		(1) 開花と光周性・春化处理との関係 (2) 受粉・着果の過程			2
8 食糧生産と栽培学		(1) 現代社会の食料問題 (2) 作物栽培と栽培学			2
9 作物の起源と農耕文化		(1) 栽培植物の出現と特徴 (2) 栽培植物の種類 (3) 農耕文化圏と栽培植物の多様性			2
10 作物の遺伝的改良		(1) 作物の遺伝的改良 (2) 資源植物の多様性			2
11 耕地生態系と環境条件		(1) 作物の遺伝的改良 (2) 生物的環境条件 (3) 農業立地と景観			2
12 低投入持続的農業環境保全型農業		(1) 低投入持続的農業・環境保全型農業 (2) 節水栽培 (3) 不耕起栽培 (4) 有機農業 (5) バイオマス利用			4

番号	33				
科 目	土壌肥料論	講義 1 単位 実習 1 単位	15 時間 30 時間	1 学年	実践 専攻 (選択)
講義時期：前・後期		形態：講義・実習	実務経験者による講義の有無：有		
担当講師	講義、実習：吉田清志(元全農長野生産購買部審議役) 華野淳、若子由佳里				
授業の到達目標	農業経営に必要な土壌、肥料の基礎知識、的確な施肥管理技術を習得する。				
授業の概要	講義や先進地視察、実際に土壌診断を行い施肥設計をする。				
使 用 教 科 書	図解でよくわかる土・肥料のきほん、土づくりと作物生産 収量・品質向上のための土づくり				
主 な 参 考 図 書	藤原俊六郎他「土壌肥料用語事典」農文協				
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 土壌基礎知識	(1) 土壌の役割 作物の生育環境としての土壌			1	
	(2) 土壌の成り立ち 生成過程と土壌の性質			1	2
	(3) 土壌の組成 土壌を物理的にとらえる			1	
	(4) 土壌微生物 微生物と土壌、作物との関連性			1	4
	(5) 土壌の化学性と養分保持 陽イオン交換能とpH,りん			1	4
	(6) 土壌三相 器としての土壌			1	2
2 肥料基礎知識	(1) 養分吸収 三要素とその他要素の働きと吸収			1	
	(2) 肥料の性質 肥料成分とその反応、肥料の種類			1	
	(3) 有機質肥料、堆肥 効果と堆肥化の方法			1	
3 施肥の実際	(1) 施肥設計 必要性和方法			2	4
	(2) 土壌分析と診断 簡易分析と診断方法			1	4
	(3) 畑土壌の管理 特性にあわせた管理方法			1	4
	(4) 水田土壌の管理 特性にあわせた管理方法			1	2
	(5) 施設土壌の管理 特性にあわせた管理方法			1	4

番号	34				
科 目	植物防疫論	講義 1 単位 実習 単位	15 時間 時間	1 学年	実践 (選択) 専攻
講義時期：前・後期		形態：講義	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	町田希実				
授業の到達目標	植物病虫害防除の基礎知識の修得				
授業の概要	植物の病害、虫害の生態や診断の基礎知識を学び、防除方法や農薬の適正使用の技術を身に着ける。				
使 用 教 科 書	「農作物病虫害・雑草防除基準」長野県、病虫害・雑草防除の基礎				
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 病虫害防除の基礎	(1) 病虫害防除の考え方、IPMについて			2	
2 病害の診断と防除	(1) 病原微生物の種類と発生要因について			2	
	(2) 病害の診断と防除及び殺菌剤の特性について			2	
3 害虫の生態と防除	(1) 害虫の種類と生態について			2	
	(2) チョウ目害虫の防除と殺虫剤の特性について			2	
	(3) アザミウマ類など微小害虫の防除について			2	
4 農薬使用の基礎	(1) 農薬の適正使用について			2	
	(2) 農薬使用の実際について			1	

番号	35				
科 目	農用機械学Ⅰ (基礎、大特)	講義 1 単位 実習 1 単位	15 時間 30 時間	1 学年	実践 専攻 (選択)
講義時期：前期		形態：講義・実習	実務経験者による講義の有無：有		
担当講師	講義：安孫子秀行(元ヤンマーアグリジャパン(株)専任部長)：農業機械の製造販売業者として、農業機械の基本構造、取扱・保守等について伝授。 実習：花岡和徳、農大研修部				
授業の到達目標	農業機械の効率的利用を図るため、機械の構造、作用、特性並びに利用法と日常の保守点検整備の基礎知識、技能を修得する				
授業の概要	農業機械の構造、保守点検等の基礎知識を学び、トラクタの運転技能を習得する				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 農業の機械化	(1) 農業機械化の目的 (2) 農作業の特性と機械化 (3) 農業機械の種類及びその発展			2	30
2 機械の基礎	(1) 機械の構成要素 (2) 工具の種類と使用法 (3) 計測器の測定法 (4) 潤滑油の種類、用途及び役割 (5) 燃料の種類、性質及び取扱			4	
3 農用原動機	(1) エネルギーの種類と動力 (2) 電動機 (3) 内燃機関 種類、火花点火機関の種類(4サイクル、2サイクル)			6	
4 乗用トラクター	(1) トラクターの取扱 (2) 保守点検 (3) 運転技術 (4) 資格免許取得				
5 その他の機械類	(1) 移植機の取扱、保守点検 (2) 防除機の分解組立、整備 (3) 収穫・乾燥・調整器の保守整備			3	

番号	36				
科 目	農用機械学Ⅱ (整備、耕耘)	講義 単位 実習 1 単位	時間 30 時間	1 学年	実践 (選択) 専攻
講義時期：前・後期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	安孫子秀行(元ヤンマーアグリジャパン(株)専任部長):農業機械の製造販売業者として、農業機械の基本構造、取扱・保守等について伝授。花岡和徳				
授業の到達目標	農業機械整備、耕耘整地作業、農作業安全の基礎知識を習得させる。				
授業の概要	農業機械の構造、保守点検等の基礎知識を習得する				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	実習
1 農業機械の整備	(1) 農業機械の特徴 (2) 整備の目的 (3) 工具、測定器具の使い方 (4) 農業機械の整備				3
2 耕うん整地作業	(1) 耕うん整地の意義 (2) プラウ作業のねらいと実際 (3) ロータリ作業のねらいと実際 (4) 耕うん整地作業用機械 (5) 耕うん整地作業の実際				3
3 管理機・トラクタの整備	(1) 管理機・トラクタの整備 (2) 機械による事故と健康障害 (3) 安全のための基本事項 (4) 機械作業の安全のポイント				8
4 SS・防除機の整備	(1) SS・防除機の整備 (2) 機械による事故と健康障害 (3) 安全のための基本事項 (4) 機械作業の安全のポイント				8
5 コンバインの整備	(1) コンバインの整備 (2) 機械による事故と健康障害 (3) 安全のための基本事項 (4) 機械作業の安全のポイント				8

番号	37				
科 目	農業機械学Ⅶ (フォークリフト 車両系建設機械)	講義 単位 実習 1 単位	時間 30 時間	1 学年	実践 (選択) 専攻
講義時期：前期		形態:実習	実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	花岡和徳、国認定教習機関				
授業の到達目標	農業生産現場で生かせる資格の取得、農業機械に関する専門的知識の習得				
授業の概要	専門的知識を学び、資格取得を目指す				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 フォークリフト	(1) フォークリフトの操作 (2) 資格取得				30
2 車両系建設機械	(1) 車両系建設機械の操作 (2) 資格取得				

番号	38				
科 目	就農準備演習Ⅱ	講義 単位 演習 3 単位	時間 90 時間	1 学年	実践 専攻 (選択)
講義時期：前・後期		形態：演習	実務経験者による講義の有無：無		
担当講師	宮本周司、花岡和徳				
授業の到達目標	卒業後の円滑な就農の準備を進めるため、就農計画の作成と農地や住宅の確保、就農地の人脈づくりを行う。				
授業の概要	就農地の関係機関への訪問等を通じ、農地や住宅の情報を集めるとともに、JA青年部や青年クラブの活動等を通じ就農地での円滑な人脈づくりを行う。				
使 用 教 科 書					
主 な 参 考 図 書					
成績評価の方法	試験の結果、履修態度、研究調査報告書等により総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。				
授業計画					
項 目	教 授 内 容			講義	演習
1 県内各地の就農地に出向いて就農準備のための活動支援をおこなう	(1) 農地の確保、住宅確保に関する情報提供 (2) 農地等の貸借契約成立に向けた手続き				24
2 就農地の関係機関との連携をはかりながら情報を集める	(1) JA・農業農村支援センターとの連携活動 (2) 就農予定地の人脈の確保				24
3 農産物の販路開拓	(1) 販路確保のための情報収集 (2) JAとの連携、部会活動への参加				24
4 就農地での円滑な人脈づくり支援	(1) 地域行事等への参加誘導				18